

2 指導案例

<指導案①>

(1)単元 安全で快適な住まいづくり (本時2 / 10)

(2)本時の目標

- ・家族と住まいのかかわりについて，関心をもつことができる。 【関心・意欲・態度】
- ・住まいの動線や部屋数などについて問題点を見だし，住まいを改善したり住まい方を工夫したりすることができる。 【工夫・創造】

(3)本時の評価規準

- ・家族と住まいのかかわりに関心をもち，自分の生活に取り入れようとしている。
- ・住まいの動線や部屋数などについて問題点を見だし，改善案を考えることができる。

(4)準備・資料

ホワイトボード，ホワイトボードマーカー，ワークシート

(5)指導過程

[支] 支援， ・留意点 (評) 評価

区分	学 習 活 動	支援・留意点・評価
導入 5分	1 モデル家族について知る。 家族と住まいのかかわりを考える	・新婚夫婦が新居を探すモデル家族の設定を知らせることで，本時への学習意欲を高める。
広げ る 10分	2 生活行為と住空間の関わりについて理解する。 (1)新婚夫婦の新居に必要な部屋や空間を考え，発表する。 (2)分類された部屋の名前を見比べ，共通点を考え，発表する。	・グループごとに考えさせる ・部屋の名前をホワイトボードに一つずつ記入させ，黒板に貼る。その際，「生理・衛生」「家事」「家族共有」「個人」「その他」の空間に分類する。 ・分類して貼った部屋の名前の共通点を見出させ，5つの分類を知らせる。
深め る 25分	(3)家族と住まいの関わりを考える。 ①モデル家族に必要な部屋を考えグループで話し合う。 ②グループの案を学級全体で話し合う。 3 自宅の問題点を見付け，改善案を考える。	・新婚夫婦は「収入は多くない」「将来のために節約したい」という設定を再度確認し，本当に必要な部屋は何かを考えさせる。 [支] 意見が出ない場合は「寝室はいくつ必要か」や「寝室とダイニングは同じでよいか」などを課題として提示し，話し合いがしやすいようにする。 ・グループの意見は，必要な部屋の名前と理由を記入する。 ・生徒の意見の中から，食寝分離や就寝分離，動線について取り上げ，その意味を説明する。 ・収納スペースや廊下の意味についても説明をする。 ・生徒が住む自宅の動線や部屋数について問題点を考えさせる。 (評) 住まいの動線や部屋数等について問題点を見だし，改善案を考えることができる。 (ワークシート②) 【工】
まとめ る 10分	4 より生活しやすい住まいを目指すために大切なことについて自分の意見をまとめる。	・部屋の配置や部屋数と生活との関わりについて重点的に記述させるようにする。 (評) 家族と住まいの関わりに関心をもち，自分の生活に取り入れようとしている。 (ワークシート②) 【関】